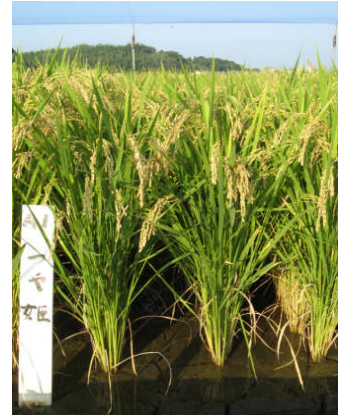


誕生！大分の新ブランド米「つや姫」

【研究のポイント】

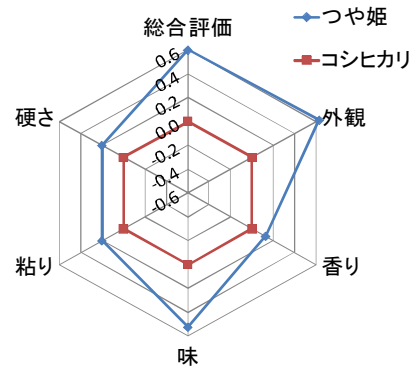
近年、地球温暖化の影響による気温の上昇により、水稻の品質低下が問題となっています。また、大分県では水稻作付面積の約70%が「ヒノヒカリ」となっており、収穫等作業の集中化、台風等気象災害リスクの高まりが課題となっています。



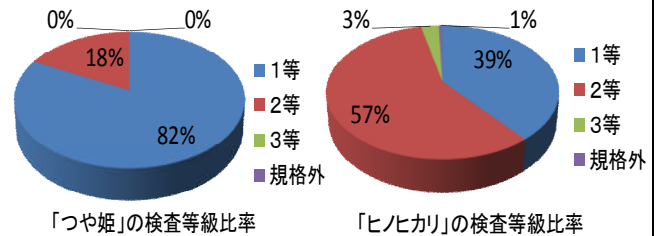
【研究の成果】

当グループでは、数ある品種の中から、温暖化に強い新しい水稻奨励品種を決定するための選抜試験を実施し、暑さに強く、中生(※)の「ヒノヒカリ」と作業が競合しない極早生新品種「つや姫」を選定しました。
 「つや姫」は山形県の育成品種で、全国的にも注目されている品種です。「つや姫」の食味評価は高く、「コシヒカリ」と比較しても同等以上で、特に「つや」のある外観が総合評価を高めています。
 平成22年は非常に高温年で、「ヒノヒカリ」は著しく品質が劣り一等比率が低下しましたが、「つや姫」は一等比率82%で、高温に強い特性が発揮されました。
 平成23年2月には、大分県の奨励品種に採用しました。
 現在は、大分県に適合し、より美味しい「つや姫」が生産できる栽培方法の研究を進めています。その試験結果をもとに、今後マニュアル作成を行います。
 平成23年産米の作付は約100haで、平成24年産は約500haの作付を予定しています。
 「おおいつつや姫」の評価を高めるため、当面は認定生産者のみの作付になります。

「つや姫」の食味評価結果
 (基準米は複数産地ブレンドのコシヒカリ)



平成22年産米の検査結果



(※)成熟が早く早期に収穫できる作物の品種群を早生(わせ)、収穫期の遅いものを晩生(おくて)、中間のものを中生(なかくて)と呼ぶ。

【生産者の声】



石川壽郎さん

昨年、初めて「つや姫」を栽培しました。昨年は台風の影響で圃場の一部でイネがやや倒れたところもありましたが、高温の影響を受けにくい特徴から米の充実が良く、見た目以上に収量がありました。今後米の生産面積を増やす計画ですが、米の品質や食味を考えて「つや姫」の栽培面積を増やしたいと思います。

【消費者の声】

外観がきれいです。
 冷えたおにぎりでも美味しかったです。
 (平成24年2月7日に豊後大野市で開催した研究成果発表会で「つや姫」の試食をした方の感想)

【連絡先】

担当：農業研究部 水田農業グループ 作物品種チーム
 TEL：0978-37-1160
 住所：870-0103 大分県宇佐市大字北宇佐65